

岐阜県の プラスチック

工業組合が総会を開催、大松理事長らを再選
10月に組合からヨーロッパ産業視察団を派遣、団員を募集開始
日本プラ工連の伊沢専務理事を招き記念講演
特級・技能検定試験に二人が合格

デザインの心

組合員の工場訪問

事務局だより

平成7年度の事業計画や予算を決めた総会



新事業にヨーロッパ視察

工組とデザイン協会の総会開く

役員改選で大松理事長らを再選

岐阜県プラスチック工業組合は、5月26日午後、岐阜市内にある岐山会館で『第27回通常総会』と『プラスチックデザイン協会第33回通常総会』を開催した。工業組合の議題は①平成6年度の事業報告・収支決算②平成7年度の事業計画・収支予算③平成7年度の賦課金及びその納入方法について④平成7年度取引金融機関及び借入金最高限度額⑤任期満了による役員改選—など5議案である。

このうち役員改選では、理事長に大松利幸氏、副理事長に児玉俊一、大野實、日比勝次氏ら正副理事長のほか、理事、監事を選出した。また、事業計画では10月にドイツで国際プラスチック・ゴム見本市が開催されるのを機会に、ヨーロッパへ産業視察団を派遣することなどの新年度事業を決めた。

なお、総会を記念し東京から、日本プラスチック工業連盟の伊沢伯専務理事を招き『プラスチック工業の現状と展望』について講演してもらった。(講演要旨は6～7頁に紹介)

大松理事長「景気は夏から秋にかけて悪くなる？」

通常総会は児玉副理事長の開会あいさつで始まり、続いて大松理事長が「あやふやな景気が続いているが、私が信頼している嶋中雄二・三和総合研究所主任研究員によると“景気は夏から秋にかけて失速し、悪くなる”という。その理由は株価や商品市況の軟調、長期金利の低下はもとより、新設住宅着工の低迷、さらに世界的な景気の拡大から、円高にかかわらず輸入物価が下が



海外産業視察団派遣など事業計画や予算を承認した総会

らないことで、すでに中小企業の景況感は徐々に悪化してきている」と、経済環境の現況と予

断を許されない景気見通しを述べた。

業界としても「原料高の製品安という悪環境に悩まされ、加えてPL法（製造物責任法）や容器包装のリサイクル法制定など不安材料は増すばかり。この厳しい年を業界の結束と努力で切り抜きたいものです」と、呼びかけた。

事業計画、予算など全議案可決

— 新年度予算総額は3,977万円 —

議事は最初に①平成6年度の事業報告と総額4,479万余円にのぼる平成6年度の決算②11項目にのぼる平成7年度の事業計画と総額3,977万円余の収支予算③平成7年度の賦課金及び納入方法④平成7年度の取引金融機関及び借入金最高限度額—の4議案を審議し、原案どおり可決した。このうち主な平成7年度の事業計画は

①指導教育事業は、国、県、中小企業団体中央会ほか公社、公団等の関係機関と連携し、組合員のための研修会、講演会、セミナーなどの事業に積極的に参加、活力と創造性を持った組合員の育成を図る。

②新技術開発には技術者養成が欠かせないため、県職業能力開発協会からの受託事業である【プラスチック成形射出成形作業】および【プラスチック成形用金型製作作業】の技能検定試験を実施、技術の向上に努める。

さらに技能検定試験の合格率向上と受検者の安全を図るため、特別講習会を実施する。

ヨーロッパ視察団の派遣は10月に

③新規事業＝ドイツのデュッセルドルフ市で【国際プラスチック・ゴム見本市】開催を機会に、10月5日から10日間、ヨーロッパへ産業視察団を派遣する。同見本市は世界最大の規模と最高の内容を誇ることで有名。見本市のほかに現地のプラスチック加工産業連合会や材料、成

形、金型メーカーを視察し、ロンドンでもプラスチック関連企業を訪問する予定である。

職場環境や雇用管理の改善で研修

④新規事業＝労働力確保集中指導事業（国・県の補助事業、中央会指定）を実施する。労確法に基づく職場環境や雇用管理の改善などに関する研修会を開催し、中小企業の労働力確保に役立てていく。

⑤新規事業＝組合員企業の人材育成を体系的に行うため、岐阜職業能力開発短期大学の全面協力を得て【能力開発セミナー】を実施、参加促進を呼びかける。

⑥情報提供事業は、会報「岐阜県のプラスチック」を年6回発行し、組合員に必要な経済・業界情報を提供する。また、定例役員会の協議事項、組合の運営や事業についての詳細を会報に【お知らせ】として提供する。

このほか工業技術センターが発行する「技術情報ぎふ」を配布するほか、組合員に必要な国・県の施策などを情報提供する。

⑦共済事業出は、ディーラーや取扱店と提携し銀行口座引落方式による自動車購入ローンを実施、組合員企業および従業員の利便を図る。また、組合員の事業活動に必要な離型剤・薬品などの希望品目を共同購入し、企業活動の効率化を図る。

⑧金融事業では県、政府系金融機関等が実施する運転・設備資金の融資および各種中小企業制度融資を組合員に情報提供し、組合員の希望に応じて制度の指導、あっ旋、助言を行い、経営の安定に役立ててもらう。

⑨事務代行事業は、労働保険の事務委託事業（労働保険事務組合の認可済み）として、組合員に代わって業務を行う。

⑩調査研究では適宜・適切な情報や施策を組

合員に提供するため会報記事として収集、また、中小企業施策担当の諸団体と連絡協調して収集、提供する。

①福利厚生事業では、組合間の親睦交流・連携を図るため新年互礼会、組合員の健康づくり・親睦ゴルフ大会、慶弔見舞いなどを実施、組合の円滑な運営と組織の強化・活性化を図る。

②組合賛助会員制度の発足3年目に当たり、

賛助会員を新年互礼会に招き、交流の場として定着を図っていく。

PL法も組合の検討事項に加える

⑬検討事項としては、これまでの『労働時間短縮』『プラスチック廃棄物の処理・再資源化対策』に続いて『製造物責任（PL法）』を加えて、組合としての対策を検討する。

総会で工業組合の役員決める

大松理事長はじめ理事13人と監事2人を選出

第27回通常総会の席上で行われた任期満了に伴う工業組合の役員改選は、選考委員による推薦方法で行い、新理事長に大松利幸氏を選んだのをはじめ次の各氏を選出した。

このうち川瀬忠雄理事は青年部の新部長として、また、福島文夫理事は納土栄一郎理事退任に伴い新しく選ばれた。

再任された大松理事長は「プラスチック業界は岐阜県七大産業の一つに位置付けられており、工業組合は確固たる地位を築いていく責務がある。組合活動の強化と組合員企業の努力で、一層の振興を図りたい」と挨拶した。

《理事長》

大松 利幸（岐阜プラスチック工業(株)）

《副理事長》

児玉 俊一（コダマ樹脂工業(株)）

大野 實（(株)東海ポリエチ工業所）

日比 勝次（大垣プラスチック工業(株)）

《理事》

川瀬 忠雄（(株)川瀬樹脂工業）・新任

林 貢一郎（岐阜産研工業(株)）

三輪 嘉人（三光合成(株)滋賀工場）

岡部 修二（シーシーアイ(株)）

清水 昭市（(有)清水樹脂）

田部 将行（天龍工業(株)）

杉山 元彦（パール化成品(株)）

福島 文夫（(株)フクシマ化学）・新任

松田 興市（ムトー精工(株)）

《監事》

篠田 哲（岐阜技研ポリマー(株)）

武藤 幸平（(株)武藤化成工業所）

《顧問》

武藤 昭三（ムトー精工(株)）

（いずれの役員も任期は平成7年5月27日から2年間）

プラスチックデザイン協会も総会

講習会や研修会などへの参加

工業組合の総会に続いて岐阜県プラスチックデザイン協会の第33回通常総会も開き、平成7年度の事業計画と予算を決めた。

年間予算は16万円で、事業は①デザイン講習会1回②デザイン関係の資料配布、年間2～3回③岐デ振主催の各種デザイン関係の研修会、講習会、セミナー、異業種交流などへの参加④工業組合の会報に企画記事「デザインの心」と「豊かなデザイン」を掲載する一などを実施する。

施策を活用し苦況乗り切りを…

武内商工労働部次長ら来賓が組合員を激励

工業組合は、総会に県関係者ら多数の来賓を招いた。このうち武内章・県商工労働部次長と羽淵友二・県中小企業団体中央会副会長の二人から激励の祝辞もらった。

武内氏は「プラスチック業界は設備の近代化、技術革新、人材育成など積極的に努力され、県内七大産業の一つとしてしっかり根付いていた

だき、大いに感謝しております。しかし、今日では廃棄物処理問題はじめ、業界を取り巻く環境は厳しさを増しており、むしろ新たな事業展開のチャンスと捉えて、取り組んでもらいたい。当面する商工振興策としては①雇用対策②地場産業の活性化③ベンチャービジネスの振興—の3点に重点を置いて施策を進める方針です。いぜんとして厳しい経済環境が続きますが、施策を活用され、苦況を乗り切ってほしい」と県の施策を説明し、激励した。

また、羽淵氏は「中小企業を取り巻く環境は



左から武内氏と羽淵氏

91年のバブル崩壊以後4年余になんなんとする長期不況にあります。加えて円高や阪神大震災が重なり、経営環境は複雑にして、好転の兆しは未だ見えてきません。それに中小企業には、7月1日施行の製造物責任法に伴う対応、来年3月に猶予期間が切れる改正商法の適用、さらには9年4月からの週40時間労働制などと、課せられた課題には大きなものがあります。こんご企業、組合の一層の活動強化を期待します」と指導団体の立場から激励した。

職場環境改善で研修

工場の視察や研修旅行も
青年部の新年度事業計画

工業組合の青年部は4月22日、岐阜市内のスポーツパルコで川瀬忠雄部長ら新役員のもとで第14回通常総会を開き、新年度の事業実施計画を決めた。

新年度の活動目標は「次代を背負うリーダーとしての意識に燃え、親組合への事業協力を通じて時代のニーズに応じた研修、自己啓発、情

報交換、部員相互の親睦を図っていく」に置き隔月に次の事業を実施していく。

7月研修会は工場の視察研修、9月研修会は親睦研修旅行、11月研修会は親組合が実施する労働力確保組合集中指導事業の一環として研修会を行う。この事業は国の労確法に伴うもので専門の講師から職場環境の改善、福利厚生の見直し、人材養成などのノウハウを勉強し、各企業の労働環境改善に役立てるのがねらい。

1月は新年互礼会として開催するほか、県中小企業青年中央会の各種事業に参加していく。

「業況は急速に良くなるしない」

景気など業界の最新情報話す

工業組合は5月26日午後、岐阜市内にある岐山会館で通常総会を開いたが、その総会を記念し、東京から日本プラスチック工業連盟の伊沢伯専務理事を招いて『プラスチック工業の現状と展望』について講演してもらった。伊沢専務理事は、三井石油化学工業、米国三井化学工業、三井物産をへて日本プラスチック工業連盟に招かれた人で、その講演内容は①業界の見通し②中小企業白書から見た業界の動向③製造物責任法（PL法）④リサイクル新法⑤生分解性プラスチックの現状—など、プラスチック業界の最新情報をスライドを使い、解りやすく講演してもらった。次は主な要旨。

化学製品PL相談センター

プラスチックをめぐる話題は、まず、今年7月に施行予定の製造物責任法（PL法）である。プラスチック業界が問題としている点は①裁判外紛争処理体制②PL保険③対策のガイドライン—でこの3項目を整備し、施行に備える必要がある。

このうち裁判外紛争処理体制について日本プラスチック工業連盟は、これまで保管官庁や関係団体と協議・検討を重ねてきた。その結果、日本化学工業協会が6月1日からスタートさせる『化学製品PL相談センター』のネットワークに入り、相談やあつ旋体制を整えていくことにした。

PL保険は、業界・団体ごとに共同保険が検討されているが、参加企業が割合少なく、保険料も個々企業ごとに加入する場合より余り下がらない。このため中小企業庁が2月から提唱している中小企業団体PL保険制度が150万企業対象で割引率47%となり、現在で

はもっとも有望な共同保険といえる。

紛争処理体制や共同保険の整備問題の他に大切なのは、ガイドライン（製品取り扱い説明書）の作成である。製品情報や警告表示をユーザーへ伝達・提供することは、事故防止の第一歩となるからである。

小規模事業者は適用除外に

続いては国会に上程、審議中のリサイクル新法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律案）である。

法律の基本的な考え方は、消費者がびん、缶、紙、プラスチックなどの容器包装ごみを分別排出し、市町村が分別収集の責任を持って行い、事業者がこれを引き取り責任をもってリサイクルすることを義務付けている。

今国会で法案が成立すれば、今年末までに公布され、2年以内に施行される。小規模事業者（従業員20人以下）は適用除外され、中小企業は3年程度義務が猶予される。また、プラスチックの再商品化は技術が完成してい



プラスチックに関連する最新情報を話す伊沢専務理事
ないため、最長5年間延長される。

施行5年後には3割を回収

リサイクル義務を負う事業者では、販売する商品に特定容器を用いる事業者、特定容器等を製造する事業者、販売商品に特定の包装を用いる事業者で、いずれも輸入業者が含まれている。実際にはリサイクル義務を負う事業者は最初の費用を負担し、公益法人をつくって処理するか、リサイクル業者に委託することになるが、最終的に費用は商品に転化され、消費者が負担することになる。

通産省の試算によると、容器包装ごみは排出するごみ全体の30%程度占めるといわれ、施行後5年後にはその30%ぐらい回収して再商品化へ持ち込み、ごみ減量に大きな役割を果たしたいとしている。

原料樹脂は増産、記録更新

最後はプラスチック業界の見通し。原料樹脂生産は、昨年1,303万6千ト、で前年の6.4%増。今年は1~3月で早くも350万トを生産しており、これを年間に換算すると実に1,400

万トにのぼる。昨年が史上最高、このままいけば、今年はさらに記録を更新することになる。つい1~2年前までは夢のような原料樹脂の生産量であったが、これが実現したことになる。

成形製品は昨年が547万7千ト、今年1~3月で138万7千ト。この数値は従業員40人以上の企業で、業界全体に直す

と1,100万ト程度となる。増産された原料樹脂はどこへ行ったかというところ、輸出に回った。日本国内と異なり世界的な景気拡大の中で、約200万ト以上も輸出されたという。このことは海外における成形産業の好調ぶりがうかがえ、その反動が日本の成形業界の不安のタネになりそうだ。

景気回復への反発力は弱い

今年の中小企業白書にはプラスチック業界の調査事例が多く取り入れられている。このうち経営上の問題点の項目では、プラスチック業界は①受注単価の低下②従業員の高齢化と労働力の確保難③受注先の海外転換一をあげている。このうち海外転換についての調査を見ると、すでに7%の企業が転換し、16%の企業が将来的に転換したいとしている。

これらの要件を勘案して今後の業界を見通すと“成熟した産業となっており、業況は急速に良くならない。景気の動きは非常に穏やか。回復への反発力は弱い”ので、新規事業分野への進出や技術開発に取り組み、活路を切り開いてほしい。

商工中金から感謝状

組織金融推進と業界の発展で

工業組合は「組織金融の推進と業界の発展に努め、商工中金の使命達成に多大の貢献があった」として商工中金（児玉幸治理事長）から感謝状と記念品を受けた。

授与は通常総会後のパーティーの席上で行われ、組合員が見守る中で商工中金岐阜支店



の寅井政治支店次長から大松理事長に手渡された。写真は感謝状を受ける大松理事長。

特級・技能検定試験に二人が合格

井藤正司さん（岐阜プラ）と野々村満治さん（ムトー精工）

岐阜県職業能力開発協会が実施する【特級・プラスチック成形】の技能検定に二人も合格した。合格した人は井藤正司さん（ムトー精工(株)課長）と野々村満治さん（岐阜プラスチック工業(株)課長）で「会社実務と並行して、指導書をよく読み、確かめてきたことが役立った」と二人は謙虚に話している。岐阜県下の特級技能検定は平成元年から実施され、同2年3月に合格した平光完治さん（岐阜技研ポリマー）が初めて合格、今回の2人で合計3人となった。

受検資格は1級合格し5年の実務

特級・プラスチック成形の受検資格は、1級技能検定に合格し、その後5年以上その職種の実務経験のある人に限られる。検定内容も1、2級とはまったく異なり、まず要素試験（50分間）がある。これはビデオを見ながら管理者として欠かすことのできない“仕事の教え方”と“改善の仕方”について試験をうける。続いてペーパーテスト（2時間）があり、工程管理、作業管理、品質管理、原価管理、安全衛生管理

設備管理、さらにプラスチック成形の場合は職場管理が加わり、試験の範囲は広い。

金型製作の技能検定に3人が合格

平成6年度の後期技能検定試験として実施した【プラスチック成形用金型製作作業】に3人が合格した。合格者は次のみなさん。

水谷東明夫（岐阜プラスチック工業(株)）
沼崎 静男（ムトー精工(株)）
長瀬 秀敏（ムトー精工(株)）

新規学卒者の採用・選考開始日程

岐阜公共職業安定所は、平成8年3月に新規卒業予定者の求人取り扱い期日を決めた。

中卒の求人受理は6月20日から、推薦選考開始は1月1日。高卒は求人受理確認が6月20日から、推薦開始は9月5日、選考開始は9月16日。大学、短大、高専卒は求人受理が6月1日から、求人内容の学生への掲示は7月1日から企業説明会は7月初旬から、選考開始は8月1日前後から、採用内定の開始は10月1日。

従来型の経営に警鐘

中小白書・新分野選出求める

国の95年版『中小企業白書』（中小企業の動向に関する年次報告）が公表された。

白書の主な内容は「中小企業の業績低迷は、円高や価格破壊など構造的な変化によって生じている」また「アジア諸国の技術力向上によって、日本の中小企業の競争力が弱まっている」と分析し「経費削減など従来型の対応に依存したままの経営では、早晚行き詰まる」と警告し

ている。これは調査の結果、円高対策として経費削減をあげる企業が多かったからで「コスト削減のみによって、長期的な発展を期することはできない」とも強調している。

具体的な改善策としては「新規事業分野への進出、技術開発の強化、海外事業活動の展開、情報化の推進などと積極的に取り組み、活路を開くよう」に求めている。ただ中小企業にとって、新分野進出や海外展開は大きなリスクを伴う。リスクへの不安が障害となれば、新分野進出は容易には進まない。中小企業はこのリスクをどうカバーするかが、大きな課題といえる。

中小企業融資制度の利率を引下げ

岐阜県商工労働部は4月17日から『岐阜県中小企業融資制度』の利率を全面的に改定し、各資金とも0.6%引き下げた。新金利は▽経営安定資金3.6%（保証付3.2%）▽関連倒産防止資金保証付で2.7%▽小規模企業活性化資金3.3%（3.1%）▽小企業特別小口資金保証付で3.1%▽労働力確保対策資金3.1%（2.9%）▽地球環境改善資金2.9%（2.7%）▽ベンチャー企業等支援資金3.4%（3.2%）▽新分野進出等企業活力支援資金3.4%（3.2%）▽ハイテク・ハイタッチ産業育成資金2.8%（2.6%）▽経済変動対策

資金2.6%（2.4%）となっている。

また、体質強化関連では▽経営安定対策資金2.6%（2.4%）▽組合共同事業推進資金3.7%（3.5%）▽フロンティア企業育成資金は2.8%（2.6%）となっている。

なお、（ ）内は信用保証付の融資利率。

高齢者の就業支援センターが開設

ハローワーク岐阜では、岐阜市金町4にある明治生命岐阜金町ビルの7階に『岐阜高齢期雇用就業支援センター』を開設し、利用を呼びかけている。高齢者者の豊かな知識・経験を生かして働いてもらおうと、相談と援助を行う。

三菱化成のエンジニアリング プラスチックス

ナイロン樹脂

NOVAMID

ポリカーボネート樹脂

NOVAREX[®]

PBT樹脂

NOVADUR

ポリエチレン

中低圧ポリエチレン

NOVATEC

高圧ポリエチレン

NOVATEC-L



三菱化成株式会社

本社：東京都千代田区丸の内2-5-2・三菱ビル
電話 03(283)6320(大代表) (千100)

デザインの心ー 1

『へうげものマインド』

岐阜県プラスチックデザイン協会

“へうげもの”…。先の4月の県職員恒例の異動により、18年間携わってきた東濃地方の陶磁器を離れ当地に赴任、そして“岐阜県のプラスチック”からの寄稿依頼。すっかり陶磁器になりきってしまった頭で何を書けばよいものやら、思考の空洞化の中で行き着いた末が、この“へうげもの”です。私にとってもれば、大胆不敵にも18年間の歳月を費やしたどり着いた焼き物の真髓？。言い換えるなら、18年目の昨年度陶磁器試験場で業界共々練り上げたデザイン開発のコンセプトということになります。

“へうげもの”、標準語では“ひょうげもの”です。東濃の地方語であり焼き物を語る言葉として用いられます。“ひょうげる”を辞書で引くと“おどけたことをする”“ふざける”となります。しかし、焼き物で語るには、もう少しリベラルで真面目な意味をもつ様です。

美濃は言うに及ばず、日本の焼き物史のなかで大きな変革を遂げ、最も精気溢れる創造性が発揮された安土桃山時代に、異文化の影響を受けた焼き物“織部”が美濃の地で誕生し、精彩を放ちます。銅釉の鮮やかな緑、斬新な鉄絵文様とともに力強い“歪み”を特徴に、黄瀬戸、瀬戸黒、志野に続いて登場した織部。現代においても固有の文化、独自の美意識として地域が世界に発信し得る優れた焼き物と言えます。

織部様式の一つ、織部黒の杓型碗に代表される“歪み”を“へうげもの”“矯めもの”と称し、ロクロ成形した丸物をあえて非対称、不整形に仕上げています。美濃の陶芸家加藤卓男氏が『アンバランスの中に美と作行の面白さを求めたもの』として広く紹介されています。

では当時の作り手が、なぜ、“歪み”を求め

たのでしょうか。異文化や当時の流行、消費者である堺を中心にした文化的商人階層の嗜好、それに指導者であった古田織部の“好み”の大きな影響が考えられますが、なによりも、“モノづくり”を取り巻く様々な環境に対して、当時の作り手が、最新の情報や市場ニーズを取込み、実現する技術開発や素材の導入を図り、前向きにモノづくりに取組んだ“創意工夫の精神と姿勢”そのものが、織部を、その特徴である“歪み～へうげもの”の造形を生み出し、結果、安土桃山時代に繁栄を窮めたものと思います。

ロクロ成型した丸物に飽き足らず一つ手を加えて形状を矯め（歪め）ること、これは通常の生産活動の中に創意工夫を試みる創造の姿勢であり、次の時代に対峙する前衛の精神です。

“へうげものマインド”とは、単に形を矯めることではなく、創造と前衛という作り手の前向きでリベラルな姿勢を意味します。また、“へうげもの”という土着的な呼び名からイメージできるように地域固有の伝統的資源をも意味します。

美濃の国の長い歴史的風土と伝統の美に裏付けられた地域固有の財産の再認識、そして現代に活用を図り、21世紀の地域人につなげる。それは今日地域に生きる我々が果たすべき最も大切な使命だと思います。

“織部”という岐阜県の貴重な財産、そこに内在する“へうげものマインド”ともいえる心を、陶磁器分野に限らず、県内の作り手に共通する在処として、情報、素材、技術、デザイン、e t cに…広く、かつての時代の織部のようにクリエイティビティを発揮したいものです。

工業技術センター Y.Hasegawa

青年部活動を企業経営に生かす

(株)川瀬樹脂工業

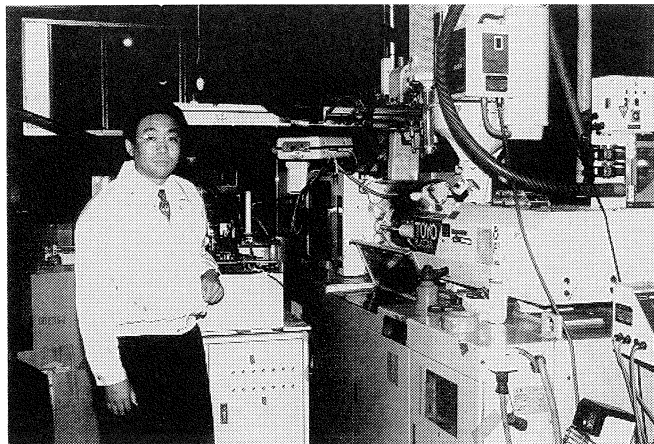
新年度最初の工場訪問は、組合青年部の3月総会で新部長に選ばれた川瀬忠雄さんの工場・(株)川瀬樹脂工業（大垣市曾根町1、川瀬保雄社長）を訪ねた。工場のある曾根というと、春日局のゆかりの曾根城があったところ。

今は本丸の遺構しか残ってないが、春日局の父である斉藤利三が城主・稲葉一鉄の重臣として住んでいた。現在は曾根城公園として整備され、その西方に川瀬さんの工場がある。

ポストは企画担当の二世経営者

川瀬さんは36歳、会社のポストは取締役企画開発部長。やがては経営を受継ぐ二世経営者。組合青年部へ入ったのは、発足間もない昭和59年、したがって青年部歴は12年と長い。

入部した頃を思い出してもらおうと「当時は、若手の創業社長と二世は半々でしたが、今では二世経営者ばかりです。企業では部員が同じ立場にあるだけに、相互交流がしやすくなった」



インジェクションの前で青年部活動について話す川瀬さん

さらに「こうした活動の環境を生かし、中身の濃いミーティングを行い、中小企業の進むべき道を探っていきたい」と話す。

さる4月には新年度総会を開き、年間の事業計画を決めたばかり。中心となる研修テーマは「昨年度は“廃プラ利用を考える”だったが、今年度は中小企業が抱える永遠のテーマ“労働力確保問題”に取り組む」と意欲を見せる。

金型工場をもち商品を自社開発

川瀬さんの工場は本社工場、南工場、物流センター、それに関連の金型会社から成る。金型会社の名は(有)マエダエンジニアリングで川瀬さんの弟・祐一さんが経営している。工場には11台の成形機が配置され、自社開発商品のハンガーを主力に容器、精密成形部品、それに岐栄協関連の産業資材を生産している。金型会社を経営することから「金型から納品まで」をキャッチフレーズに営業活動を展開、また、自社開発にも素早い対応ができ非常に有利という。

社長の川瀬保雄さんは「長年の経営の中で、

確固たる経営理念を持つことの大切さを知った。金型部門を独立させ、成形と金型の工場をそれぞれ二人の息子に責任を持たせたり、製品に“サンスリー”のブランドを付けて、自信と誇りある製品の出荷に心掛けてきたのはその結果です。こんど忠雄は青年部長の大役を受けたが組織のリーダーとして自己啓発のよい機会になると思う」と大きなエールをおくっている。

事務局だより

会員と事務局を結ぶページ

□総会への出席有難うございました□

平成7年度の新事業計画やその事業予算を決める工業組合の『第27回通常総会』と『プラスチック・デザイン協会第33回通常総会』は5月26日、武内県商工労働部次長ら来賓を迎え多数の組合員が出席して開催しました。

総会の内容はトップ記事で紹介しましたが、大松理事長をはじめとする新しい役員人事や新事業が決まりました。事務局では新役員のもとで、新事業計画にしめされた事業の数々に取り組んでいきます。

なお、右上の写真は総会後の懇親パーティーで、来賓の県関係者を囲んで出席組合員が交流・懇談を深めました。

□ドイツのプラ展を見学しませんか□

工業組合ではドイツで『国際プラスチック・ゴム見本市』が開催されるのを機会に、ヨーロッパへ産業視察団を派遣することになり、団員募集を開始しました。

視察コースはドイツ・デュッセルドルフ→フランクフルト→イギリス・ロンドンで、世界最大といわれる見本市を見学した後、プラスチック関係団体、加工、原材料、金型メーカーを訪



問する予定です。渡欧期日は10月5日から10月14日までの10日間です。詳細は組合へご連絡ください。

□労働保険の事務委託と更新の事務□

全事業所に適用されている国の労働保険には『雇用保険』と『労災保険』があり、工業組合では事務委託をしております。

代行を希望される組合員は事務局へご連絡ください。

岐阜県のプラスチック 1995 123号

平成7年6月1日発行

発行 岐阜市六条南2丁目11番地1号
(岐阜産業会館4階)

電話 (058) 272-7173

FAX (058) 276-1525

岐阜県プラスチック工業組合

発行責任者 竹内安之

ポリエチレン

スミカセン

エチレン酢酸ビニル共重合樹脂

エバテート

ポリプロピレン

住友ノーブレン

ポリスチレン樹脂

エスブライト

塩化ビニル樹脂

スミリット

メタアクリルシート

スミペックス

メタアクリル樹脂

スミペックス-B

高密度ポリエチレン

スミカセンハード

熱可塑性エラストマー

住友TPE

合成ゴムSBR

住友SBR

合成ゴムEPR

エスプレン

エチレン酢酸ビニル

塩化ビニル共重合樹脂

スミグラフト



住友化学工業株式会社

名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1丁目11番18号(興銀ビル)
電話 <052> 201-7571

出光の石油化学製品

ポリスチレン

スチレン系耐熱樹脂

ポリカーボネート

GFPET

ポリプロピレン

高密度ポリエチレン

直鎖状低密度ポリエチレン

カルブ®



出光石油化学株式会社

東京都千代田区丸の内3-1-1(国際ビル) 〒100 ☎ 03-213-9361(代)

名古屋支店 名古屋市中区栄2丁目1番1号 日土地名古屋ビル5F 〒460 ☎052-204-6051~3

ShinEtsu 信越PVC

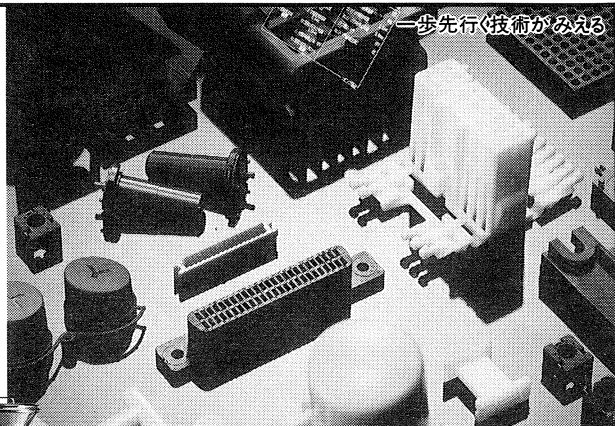
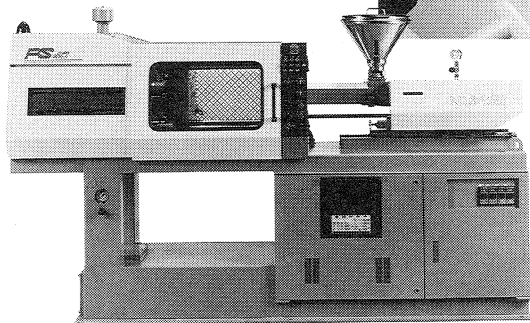
生活用品からエレクトロニクス材料まで——信越PVC

P.V.C.

信越化学工業株式会社 名古屋支店 〒450 名古屋市中村区名駅4-27-23(名古屋三井ビル東館) ☎(052)581-0651

精密成形を究めると PSシリーズになる。

最新の電子コントローラを搭載し、射出性能と操作性を向上させ、FA対応においても一層の高性能化を図りました。新感覚の生産工場を実現する価値ある射出成形機、それがNISSEIのPSシリーズです。



一步先行(技術がみえる)

NISSEI

日精樹脂工業株式会社

名古屋営業所 / 愛知県小牧市外堀2-167 ☎0568-75-9555(代)

岡崎出張所 / 愛知県岡崎市上六名4-1-8三剛ビル1F ☎0564-52-1430

三重出張所 / 三重県津市神戸横田203-4 ☎0592-24-0716

●本社・工場・技術研究所 / 長野県坂城町南条2110 ☎(0268)82-3000(大代表)

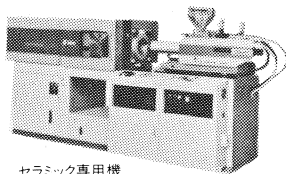
●東京事務所 ●ナカニカルセンター / 本社・相模原・岩槻・名古屋・大阪

●営業所 / 全国11ヶ所 ●出張所 / 全国20ヶ所 ●海外サービスステーション / 28ヶ所

ハイテクノロジーに挑戦

MEIKI

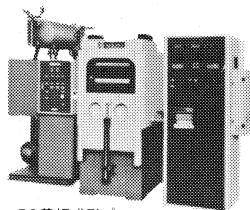
プラスチック、光ディスク、ファインセラミック射出成形機、IC基板成形プレス等、先端技術加工機を生産して、世界の名機として活躍しています。



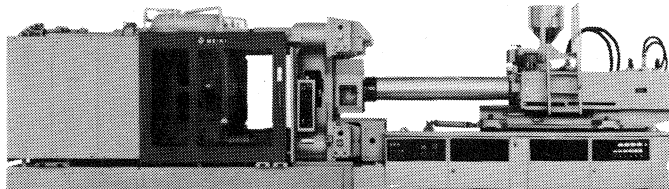
セラミック専用機



ディスク専用機



IC基板成形プレス



プラスチック射出成形機



株式会社

名機製作所

本社・工場

〒474 愛知県大府市北崎町大根2 ☎(0562)48-2111(代)

時代の進歩に多くを学んでいます。

次は...

JSR 合成樹脂ワイドセレクション

JSR ABS

イッパンヨウ
コウキノウ

JSR AES

タイコウセイジュシ

JSR XT

チヨウタイネツジュシ

JSR NC

ジコシヨウカセイジュシ

JSR NF

ジコシヨウカセイジュシ

JSR MBS

PVCキョウカヨウジュシ

JSR EXCELLOY

フクゴウガタイネツジュシ

JSR CONDUCTOR

ドウデンセイジュシ

JSR AS

コウキノウガタASジュシ

JSR RB

フタジエンジュシ

JSR TR

ネツカソセイエラストマー

JSR SIS

ネツカソセイエラストマー

NYLON 6

NYLON 6. PET-G

コウキノウポリマーアロイ

MAXLOY

DYNA FLEX

LINK FLEX

エラストマーゲイフクゴウザイ

日本合成ゴム株式会社

JSR

東京都中央区築地2-11-24

☎(03)5565-6537

大阪支店 ☎(06) 203-0041

名古屋支店 ☎(052)571-1231

広島支店 ☎(082)221-7252



活きてる素材。

三菱レイヨンのプラスチック

メタクリル樹脂 / 板状品

アクリライト[®]

メタクリル樹脂 / 射出成形材料

アクリペット[®]

ABS樹脂

ダイヤペット[®] **ABS**

三菱レイヨン

東京(272)4321 / 大阪(202)2241 / 名古屋(561)6711

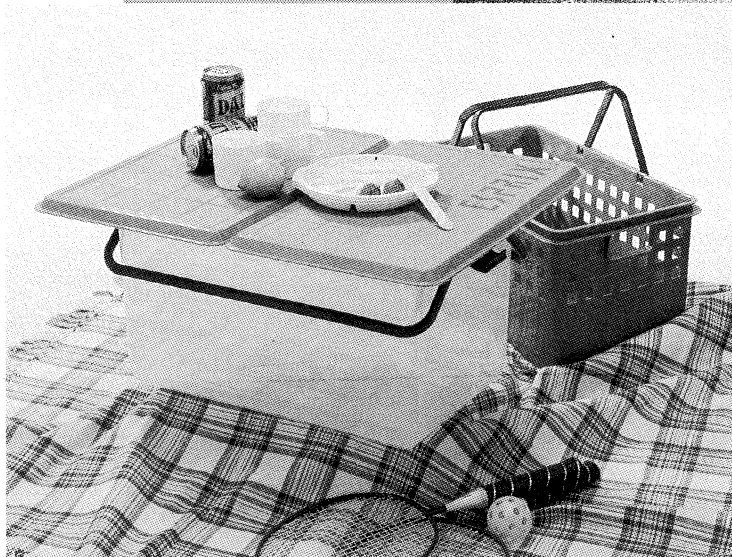
ESPRIX EARTH SPIRIT

エスプリックス

行きはボックスとバスケットにいっぱい詰めて出発。ランチタイムにフタを開けばテーブルに早変わり。帰りは、バスケットをボックスに入れコンパクトに収納できる便利なレジャーボックスです。(フタの内側は、収納スペースになります。)



ボックスがテーブルに早変わり



ダブルボックス

 リス株式会社

岐阜プラスチック工業株式会社

- 本社：岐阜市神田町9丁目25番地(大岐阜ビル6階)
- 生産本部：各務原市前渡東町4丁目222番地

岐阜プラスチックグループ

- リス興業(株)
- リスパック(株)
- リス(株)
- 東北リス(株)
- 東京リス(株)
- 大阪リス(株)
- 四国リス(株)
- 九州リス(株)
- リスエンジニアリング(株)